

「古紙業界の地位は飛躍的に向上 海外を含めた直納関係の時代に」

株式会社 寺松商店 代表取締役 寺松哲雄

Q・古紙業界の変化について聞かせてください

「この三十年を振り返ると、業界の地位は飛躍的に向上した。同時に世の中が我々の地位を引き上げてくれた。今後は我々業者が、一歩二歩先を見据えて、古紙業界の地位向上と安定を図っていく必要がある。私は昭和四十二年に入社したが、当時は製紙メーカーが数多く設立していた時期。しかし流通がまだ未整備なこともあって代納業者の数が多く、商社が流通を抑えていた時期もあった。この流通がかなり良くなったことで、代納業

者の数は減り、大きく業態が変化した。代納業者がヤードを持つようになったことも、流通の変化によるもの。」「回収形態も大きく変わった。集団回収と分別収集が回収の主流となり、問屋が直接回収するという手法も増えた。現在は飽和状態なので、今までと同じ手法でやっていても先がない。常に新しい方法を模索していかないとけない。古紙問屋が経営難で廃業したというところはない。小規模の業者で、後継者がいなくて廃業したところはあるが、基本的には安定している。」

Q・かなり早い段階から貿易事業を行ってきた

「きっかけとなったのは、昭和四十二年に沖縄から古紙の輸入を開始したこと。まだ米国領だったため、L/Cを開いて輸入を行っていた。このノウハウが、自社で貿易事業を行うことに大きく生かされている。古紙輸出を開始したのは昭和五十六年で、韓国・釜山の製紙メーカーに納入していた。昭和六十年からは台湾向けの輸出も始めた。現在は中国・韓国・台湾・タイ・ベトナム・インドネシア等、多くのアジア諸国に独自のネットワークを確立して輸

出している。」

Q・日本の輸出競争力は

「中国の法人税が一七%、台湾の法人税が二五%に対し、日本は三九%とかなり高い(※ちなみに米国は一五%〜三九%)。このような背景が、日本の製造業や貿易の競争力を奪う一因になっているのではないかと

Q・米国の視察からRDVシステムが生まれた

「一九九八年に行った全原産の米国視察旅行中、ロサンゼルスで始めて機密書類の出張断車を見た。これは日本でも普及するのではないかと、九九年十一月に全国RDVシステム

Q・今後業界はどういう方向にいくか

「これまで製紙メーカーは淘汰されてきた。業者や商社も今後、淘汰されていくだろう。グループ傘下に入る、業務提携を行う、メーカーが直納を整理する、一カーが活発に行われる等、いろいろな動きがある。同時に、今までは直納という国内製紙メーカーに限られていた権利だが、今は世界各国の製紙メーカーとの直納関係が増えているのではないかと

新聞雑誌紐取選別機

家康型・家光型 全国400台好評稼動中
古紙、再生資源産業用各種コンベヤー

株式会社 拓己技研

〒444-0201 愛知県岡崎市上和田町字北屋敷7番地
TEL. (0564) 53-1119(代) FAX. (0564) 54-2359

大きな信頼
本物だけが持つ実績
紙(古紙)回収の新たな形を実現しました
ポイント制古紙回収システム



設置場所・使用方法・最新情報はwebページをご覧ください。

PC <http://www.ecosute.jp/>

MOBILE <http://www.ecosute.jp/mobile/>

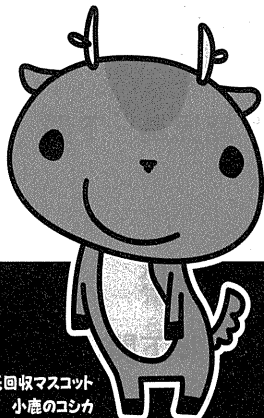
携帯電話用QRコード

株式会社 Jnesys (ジェネシス)
JAPAN NETWORK SYSTEM <http://jnesys.net/>

本 社
〒465-0072 愛知県名古屋市中東区牧の原1-1407
TEL: 052-709-4547 FAX: 052-709-4550
HP: <http://jnesys.net/>
MAIL: info-nagoya@jnesys.net

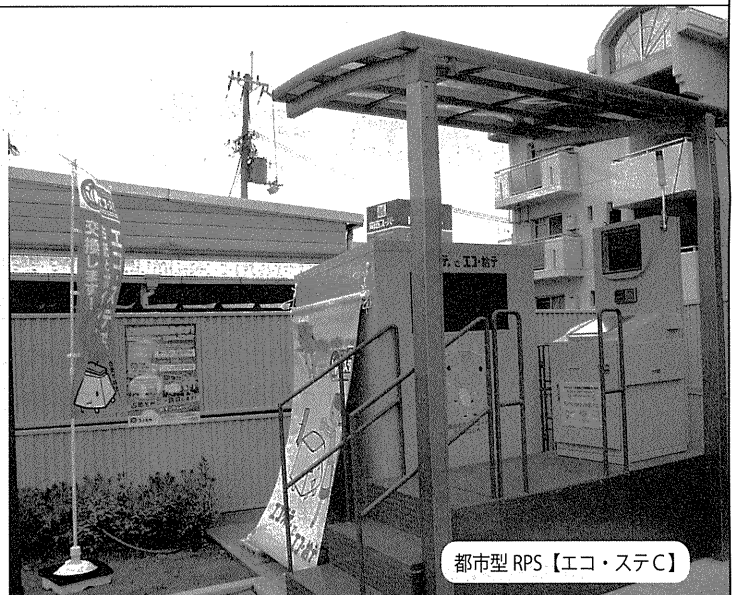
関西下 支 社
〒564-0011 大阪府吹田市岸部南1-24-23-608
TEL: 06-6319-0666

古紙回収マスコット
小鹿のゴシカ



RPS

リサイクルポイントシステム



都市型RPS【エコ・ステC】

エコステでエコ拾



工場構内の様子



久留米営業所の入口



外壁にLED証明を設置



敷地は千坪、工場建屋は三百坪



入口にカゴを置き、住民の持ち込みにも対応している



拓己技研製の選別ラインを設置



本社事務所は移転せず

計一万三千四百トン。一世帯当りの古紙回収量は八五キロ、一人当たりでは三四十キロとなる。

(株)寺松商店 会社概要

名 称	株式会社 寺松商店
本 社	福岡県久留米市津福今町 371-2 TEL 0942-35-2708(代) FAX 0942-35-2709
創 業	昭和8年
設 立	昭和34年7月1日
資 本 金	1,200万円
役 員	代表取締役 寺松 哲雄 専務取締役 寺松 一寿
社 員 数	135名(グループ全体 157名)
取 扱 品 目	古紙及び資源物全般
事 業 内 容	1. 紙、パルプ製造用原材料、資材の卸販売業 2. 鋼材及び線材の卸販売業 3. 金属のリサイクル業 4. 鉄、非鉄金属のリサイクル業 5. 一般廃棄物及び産業廃棄物の収集、運搬、保管、処理 6. 一般廃棄物及び産業廃棄物のリサイクル業 7. 上記各号に附帯する一切の業務

組合に収集運搬を委託してあり、毎月売却費用を決めて古紙問屋に売却されている。集団回収は約三百団体が登録しており、奨励金として古紙と古布にキロ六円、

協賛会を十一社で発足し、機密書類の出張断車の普及に努めてきた。これまでにJQA(日本品質保証機構)とISO27001の認証を取得。紙類の他、磁気データを消去するサービステルも構築した。現在の協議会メンバーは四十二社となっている。

「関係」や「人との繋がりが海外メーカーとの取引でも重要になってくる。海外を含めて直納という関係になる。自社の品物が、どのメーカーのどの工場でのように使われているのかを知らないで売れる時代は終わつた。中国や東南アジア諸国の製紙メーカーの紙材担当者と直接密接な関係を築き、長期的に安定した売買ができるようになって、初めて日本の古紙のグローバル化と言えるのではないかと

Q中国市場がいつまで続くかと

「危惧する声もあるが、それに関しては全く心配をしていないし、むしろ愚問だろう。中国にとっては、日本というこれだけ赤字国債を抱えている国に、もの凄いスピードで経済発展を続ける自国の心配をされる必要性は全くないと感じているのではないかと